

(別紙2-1)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年3月2日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4290300070		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム長庚堂Ⅱ		
所在地	長崎県島原市弁天町一丁目7063番地		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町受理日	平成27年3月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	<a href="http://loj.dnsalias.org">http://loj.dnsalias.org</a>
--------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成27年2月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体法人が近隣で医療機関の為に、24時間体制で連携が密に行えると共に、管理栄養士の作成したメニューに添った食事の提供ができており、利用者様ご家族様にも安心して頂いている。また立地が商店街と公園が近いため、郊外へ出かけやすく交通の利便性もある。

隣にはグループホーム長庚堂の事業所もある為、利用者同士の交流も図れている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

商店街や住宅地に隣接し住み慣れた地域の中で、家族的で明るく地域とのふれあいやその人らしい生活を大事に支援される当概事業所は、近隣との関わりを大事にされ地域からも親しみをもたれている。近隣に母体法人である医療機関や併設事業所があり、法人内外の研修を通して職員の学びの機会が多く、尊厳や入居者の生活を支える上で必要な医療知識の習得や法人内の連携を活かしながら入居者の健康管理を行うと共に、生活動作の維持向上、他職種との関わりを深め安心した生活が維持できる事業所作りを目指している。生活の中で入居者の目線に合わせ関わりを多く持ちながら「自宅だったら・・・」と入居者の思いを大事にさ

れる職員の姿は、まるで家族のような温かさを感じることができ、自然体で家族と共にその人らしい生活を支える様子はやさしさに溢れ地域の介護拠点としても、今後さらに活動展開が大いに期待できる事業所である。

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・事務室に掲示し、毎朝申し送り時に唱和し思いを共有することで実践につなげている。	地域とのふれあいやその人らしい生活を大事にした理念は、職員の意識づけの為毎日の自己評価を行うことで意識付けがなされている。人生の先輩を大切にし、耳を傾け、安心感を与える言葉掛けを行っている。新人職員へも解りやすく指導し、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	臨地実習生・福祉体験学習の受け入れや町内会の一員として市民清掃へ参加し交流している。	町内会にも積極的に参加し、地域での認知度・理解度も高く、地域住民とも日頃から交流があり、野菜等の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの旗を掲げており施設だよりを町内会に回覧し認知症の人への理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者からの率直な意見やアドバイスを頂きサービスの向上に活かしている。また、母体法人の薬剤師による感染症についての講話や手洗いの実践も行った。	運営推進会議へは地域住民からの参加もあり、避難訓練・餅つき等行事への参加もある。母体法人より、色々な専門的分野の講話を受け、地域の方へ情報の発信を行っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議に出席して頂き、施設の実情を伝え、アドバイスも頂き協力関係を築いている。	行政とは、運営推進会議で情報交換を行っている。居宅のケアマネージャーとも、在宅の高齢者の状況等情報交換を行い、協力関係を築いている。また、包括からの依頼を受け、地域住民に対し認知症の方への対応や理解に繋げる取り組みを行った。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や母体法人の勉強会で理解している。研修に出席出来なかった職員は資料を回覧している。日中、玄関や通用口の施錠は行っていない。	学びの機会を利用し、理解を深めている。常に転倒・転落の危険を意識づけ、利用者に目を向け、耳を傾け、顔つき等を観察し、見守りによる支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や母体法人の勉強会により全職員が理解し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や母体法人の勉強会により理解しているが、そのような場面に接することはなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に本人・家族の話を伺い説明を行うことをご理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時等に職員の対応や支援についての意見・要望を伺い運営に反映している。	入居者の意見・心情を察して対応し、家族の来所時には居室へ挨拶に伺い細かな状態報告を行うと共に、入居者や家族に安心して頂けるよう信頼関係を築いている。入居者と家族の心の架け橋を担いながら要望・意見等伺い、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、申し送り時やスタッフ会議に於いて意見交換を行い運営に反映している。	スタッフ会議を月1回行っている。申し送り時にも、職員とコミュニケーションを図りながら意見交換を行い、話し合いを行っている。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	母体法人の総務で把握できており職場環境や条件の整備に努めている。		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	母体法人の総務で把握しており法人内外の研修は受講できている。		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	島原半島グループホーム協議会の勉強会に於いて情報交換ができているが相互訪問等の機会はなかった。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入所前に本人の思いを傾聴し、不安の軽減に努めている。		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	入所前に家族の思いを伺い説明を行うことで不安の軽減や要望に応えられるよう努めている。		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	アセスメントを十分行い、助言を行っている。		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に家族のように接して頂けるよう努めているが、状況によっては介護者として接してしまうことがある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状態報告を行い、よりよい関係が築けるよう努めているが、月に一回の入居費の支払いだけで立ち寄る家族もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	自宅外泊を希望されるも車椅子で移動が困難な方は、施設車で送迎を行い、家族と自宅で過ごして頂けるよう支援している。	行き慣れた店や美容室など現在も継続して利用されている。また、友人の訪問時には入居者と共に玄関での出迎えを行うなど、訪問しやすい雰囲気作りもなされている。調査時も友人の訪問があり、入居者も共に楽しんでいる様子が窺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や身体の状態を把握し食堂の座席等工夫しているが、敬遠されがちな人もいて難しいこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている場合、面会に行き経過をみながら家族からの相談にものっている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・家族の思いを大切にし、身体の状態が変わった場合は話し合い対応している。	テーブル拭きなど自分の役割を楽しみにされている入居者もいる。表情・行動で汲み取り、落ち着く場所や言葉掛けで支援している。気づいた事は、報告・実践・検討・再実践のサイクルで行い、職員間で共有されている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族とのアセスメントやケアマネージャー等関係者からの情報提供により把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝夕の申し送りにより情報交換を行い現状の把握に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のモニタリングで日々の様子を説明し、現状に即した支援がなされるよう介護計画の再確認を行っている。	毎日の個人記録で状態を把握し、共有している。入居者が一番望んでいることを穏やかに過ごせるよう、家族や職員間で話し合いを行い介護計画を作成している。家族へは月に1回、事業所からの便りと共に手紙を添えて、また、遠方の家族には電話や写真付きの手紙をお送りし、状況の報告を行っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録により日々の状態変化等情報を共有することで介護計画を再確認し、実践及び見直しに活かされている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅外出・外泊時の送迎や祭り見物・外食等希望があれば可能な限り行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や町内会からの情報紙を掲示し、希望があれば随時対応している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院からの月一回の往診や定期検査及び眼科、整形外科、耳鼻科等其他医院の定期受診の支援も行なっている。	利用者・家族の希望に対応し、初診の際は家族にも同行してもらい、治療方針や現状の理解に繋がっている。また、希望により母体病院の往診、週1回の訪問看護もあり入居者や家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院からの定期の訪問看護及び異常時の相談・助言等連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人・家族の意向を尊重し、早期退院に向けて病院関係者との連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の計画作成の際、終末期のあり方について本人や家族に説明し確認をしている。	医療的な知識の研修、AEDの訓練を行っている。現在は家族の希望で病院へ入院する事が多いが、医療が必要になった時は看護師と連携を図り相談しながら支援する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにそって対応するよう、全職員が周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定しての避難訓練を行い、マニュアルにより周知している。また、施設内はオール電化であり、居室もストーブ等の暖房器具は使用していない。	災害に備え、各居室にヘルメットを用意している。備蓄品の整備もされており、利用者の情報も、今の現状の写真の添付があり、事務所に保管されている。マニュアルに沿って母体法人と共に消防署立会いの訓練及び、2か月に1回の自主訓練を実施している。避難場所まで、利用者と共に実際に避難した事もある。	推進会議委員である自治会長が地域の消防団長を兼務され、団員にむけ入居者の状態を伝達頂き協力連携体制が構築されているが、避難訓練に団員の参加が難しく、更に入居者や家族の安心に繋げるためにも情報交換や緊急時避難誘導方法の周知など、地域性を踏まえ実効性のある訓練の実施に今後期待します。



IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時の声かけや失禁時の対応等、本人のプライドを傷つけないよう言葉かけには十分注意している。  慣れあいにならないように心掛け、入居者へ配慮した言葉掛けや視線を合わせて対応するよう、管理者より指導している。また、日頃より自己評価を行い職員への意識づけを図り、支援へ取り組まれている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮なく自分の思いを伝えられるよう日頃からコミュニケーションを図っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで自由に過ごされているが、居室に閉じこもりがちの方にはレクリエーション等他者とふれ合う機会がもてるよう促している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師さんに施設に来て頂き、本人の好みの髪型にカットして貰っている。 外出時の服は相談しながら本人を選んで貰っている
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理場所、食堂兼居間が同じ空間にあるので調理の音や匂いを感じ楽しみにされている。テーブル拭きや下ごしらえ等一緒に手伝って貰っている。  準備、片付けは入居者が出来ることを行い、職員と共に会話を楽しみながら、食事をしている。手作りのおやつを利用者のリクエストを取り入れながら、一緒に作っている。また、家族からの差し入れで、稲荷りや、マドレーヌ、パンなどもあり、喜ばれている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表に基づき調理を行っている。 水分補給は決まった時間に行っており、季節や本人の状態に応じても随時行っている。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後見守りや出来ない方は介助により行っている。夜間は義歯消毒を毎日行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間を把握しトイレ誘導、声かけを行っている日中は全員トイレを使用されている。	職員が把握しトイレ誘導を行っている。排泄チェック表で状態を確認し、排泄の失敗の機会を減らす支援を実践している。また、手摺を使って立位体操を行い、生活機能の維持に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便の有無を把握しその人に応じた適度な運動や腹部マッサージ・水分補給を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は週3回と決まっているが状況に応じてシャワー浴等柔軟に対応している。また、冬場の柚子湯は楽しみにされている。	週3回の入浴を基本に、羞恥心に配慮した支援を行っている。出来るところは、利用者自身で行ってもらうよう心がけ、季節によってゆず湯等を使い入居者の楽しみに配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドに入りテレビを観ながら眠っておられたりその人のペースで自由に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人記録に添付しており、いつでも確認できる。服薬マニュアルに副って服用して頂いている。		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>その人の力に応じて手伝って頂いている。誕生会・クリスマス会・もちつき大会等、季節の行事も楽しんで頂けるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>初詣や花見等季節を感じる事ができるよう本人の希望を伺い出掛けている。面会時に家族と車椅子で近隣を散歩されることもあり家族の協力も得ている</p>	<p>季節の行事での外出、家族との散歩、お寺へのお参り、墓参り等利用者の気持ちに添い外出の支援を行っている。遠方の家族の帰省時には、自宅へ送り一緒に過ごされたりと家族の協力を得ながら支援している。島原観光ボランティアの民生委員より花の見頃情報を頂き、季節の花見に行かれることもある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族からの預かり金で移動販売のパン屋さんから自分で選んで購入されている。自分で小額の現金を持っておられる方もいらっしゃる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があればいつでも自由に電話をかけて頂いている。また、不安時に家族と電話で会話して頂くことで安心されることがある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天窓から光が差し込む食堂はテレビと一緒に観たり会話を楽しむ場所であり、季節の花を生けて安心して頂けるよう心がけている。</p>	<p>食堂兼、居間、廊下は天窓からの光で明るく、利用者の写真付きの掲示物、季節の花が飾られ安らげる空間となっている。居室入口の名札には、利用者手作りの手芸品が掛けられ温かみがある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った人が隣同士で会話が弾んだり、一人で陽あたりのよい窓際で居眠りをされたりと、思い思い自由に過ごされている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や自宅で使用されていた家具を配置し本人が安心してすごされるように工夫している。	入居者や家族と話し合いを行いながら入居者の馴染みの家具、使い慣れた物、家族の写真やお位牌、テレビ等があり、安心して過ごしやすい工夫がされている。座椅子に座り、テレビを見る習慣等も、継続して続けられる入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下やトイレには手摺りが設置されている。立位が不安な人はトイレでの車椅子移乗の際ブザーで知らせることができて転倒予防が出来る。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない